

## 「クリスマス おめでとう」

2015年12月24日

クリスマスおめでとうございます。主イエスのご降誕の物語はマタイ福音書とルカ福音書に記されている。マタイ福音書は父ヨセフの側から、ルカ福音書は母マリアの側から書かれている。両福音書の記者たちは、主イエスの生涯を、十字架と復活の福音を著そうとした。その時まず、主イエスのご降誕の物語を「プロローグ」にて、福音の内実が読み取れるように書き始めた。

彼らは、主イエスの誕生は「聖霊によって」、「聖霊が降り」おとめに宿ったと「聖霊」の関与によると告げている。主イエスのご降誕は男と女の自然の関係を越えた神の出来事であると言う。これは、歴史的な事実ではなく、神話的、寓話的表現である。古代人は自分たちの信仰告白を抽象的な概念でなく、豊かな神話的、寓話的表現で著した。その表現は旧約聖書からの引用、実在した人物や出来事をふまえ、宇宙的な広がりをもって壮大に描いている。彼らが描いた意図に沿って受け止める時、福音を正しく理解することができる。

クリスマスの意味は、マタイ福音書に書かれた、主の天使がヨセフに夢の中で告げた言葉に表されている。「『見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』この名は、『神は我々と共におられる』という意味である。」主イエスのご降誕によって、神が共にいてくださることが啓示された。永遠の神が、地上で苦しみながら生きて人間と共にいてくださる。この奇跡は「聖霊によって」なされたと表現している。さらに、主イエスのご降誕は東の方から来た占星術の学者たちに礼拝された、全世界で喜び祝うべき真の王の誕生であると書いている。この主イエスのご誕生を打ち消そうとするヘロデの幼児虐殺の罪の姿も書き加えている。

ルカ福音書は、ナザレのおとめマリアに天使ガブリエルが遣わされ、「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」と呼びかけ、受胎を告知したと書いている。マリアを恵まれた女性と呼んでいる。この世的に見れば、結婚前に出産し、ふしだらな女と蔑まれただろう。夫ヨセフとの間に沢山の子どもをもうけたが、早死にされて、寡婦になり、経済的に苦労しただろう。長男イエスは犯罪人として十字架につけられ、息子の苦しみを目の前で見て、剣で心を刺し貫かれる悲しみを体験した。マリアは母として、耐え難い苦労を背負わされた女性である。にもかかわらず「おめでとう、恵まれた方」と呼びかけられている。それは「主があなたと共におられる」からである。

聖書は、願望が叶って幸せであることを救いとは言わない。どんなに辛く、苦しい人生を生きていようとも、神に結ばれ、神が共にいてくださることを救いと言っている。主イエスのご降誕によって、インマヌエル、神は我々と共におられる救いが実現した。私たちの生は虚しい死へと飲み込まれるのではなく、神が共にいて、意味のある「恵まれた生」であると告げている。

ルカ福音書は、神の子イエスは「布にくるんで飼葉桶に寝かされた」誕生であったと書いている。ローマへの納税義務を負わされる住民登録のために、ベツレヘムに向かう途中、泊まる場所がなく、家畜小屋で生まれた。抑圧され、貧しい中でのご降誕は暗黒の中に神の光が照らした喜びを意味している。しかも、その喜びは、夜中、野宿して働く羊飼たちに知らされ、彼らが最初のクリスマス（キリスト礼拝）の栄誉に与った。抑圧、排除、蔑みの中にある者に「神と共に生きよ」という輝く光明であった。インマヌエルの奇跡は、人間の思いを逆転させる神からの福音であると主イエスの生涯を先取りして描いている。